

私たちの声を国会に

届けてください！

〈次期参議院議員選挙・日政連議員候補予定者の

水岡俊一さんへ青年部員からの訴え〉



子どもたちの未来と青年教職員が働き続けられるために…

19年7月の第25回参議院議員選挙にむけて、18年3月の日教組第107回臨時大会で推薦決定された日政連議員候補予定者の水岡俊一さんに、青年部の二人から疑問・質問・思いを投げかけました。学校現場や私たちの生活と政治って本当に関係があるのでしょうか？

子ども一人ひとりを大切にするために

保科 去年まで小学6年生の担任をしていましたが、私は子どもと遊びたいタイプで（笑）、関わり合いながら子どもたちのことを一人ひとり見たいのに、授業準備や採点等に追われて、せつかく子どもたちが来てくれても相手してあげられず、もどかしさを感じていました。教職員の数が絶対的に足りないですよ。

坂本 私は栄養教職員で小学校に勤務しているんですが、給食が終わって昼休みに入っても、先生たちは次の授業準備等に追われていて、子どもたちが鬼ごっこをしようとして誘いに来ても、机から離れられない状況を目の当たりにして、せつかくの子どもと触れ合う時間をもつたいいな、といつも感じています。

水岡 1980年、私が新採当時に担任したのは中学2年生でした。ちょうどその学年が迷信によって出生率が低い丙午（1966年）に生まれた子どもたちで、1学級30人以下で2クラスしかありませんでした。今から思い返してみても、あの人数だったからなんとかやれたと思っています。しかし、不登校の子ども一人を何とか学校に来てもらおうと必死になったのですが、最後までできなかったことは今でも後悔しています。「ゆたかな学び」という言葉はありますが、子どもたちと触れ合うための心の余裕や時間、そしてタイミングやチャンスがとても大事です。私自身の経験からも少人数学級の大切さをずっと訴えてきました。

保科 私は4年生を担当したときに、様々な課題のある学年で、25人学級で少し時間の余裕があったのですが、高学年になるにしたがって徐々に関わる時間が減っていったときに、子どもたちとの関係づ

くりにはやはり時間の余裕が必要だと実感しましたね。

水岡 私はインドの日本人学校に赴任していた時があつて、赴任中3年間とも中学2年生を担任しました。最大10人、最小1人の一対一の極小クラスも経験しましたが、少人数ならではの悩みがありました。一対一の時は女子で、当時は嫌がられているだろうなど不安でしたが、今でも連絡があるのが嫌われてはいなかったみたいです(笑)。少人数学級では、学習だけでなく全ての場面で子どもたちの感情が伝わってきて、それはそれでしんどくなることもあるけ

水岡 俊一さん (兵庫県・元小学校教員)

04年参議院議員選挙(兵庫県選挙区)初当選。10年に2期目当選。19年7月第25回参議院議員選挙にむけ18年3月日教組第107回臨時大会で日政連議員候補者として推薦決定。



れど、子どもと深い関係づくりができませんね。そういう意味でも学校は勉強だけじゃないんですね。給食一つとっても、アレルギーや好き嫌いもあつて、対応は様々ですよ。

坂本 1年間先生としやべれなくって寂しい思いをする子どももいますよね。一期一会じゃないですけど、それってお互いにとつてもつたないですよ。担任じゃないので客観的に見るとよくわかりますよ。

水岡 定数は法律で定められてしまつていて、変えるためには予算が伴うので文部科学省だけではできないことなんです。私も当時予算委員会で、朝礼の短い時間でクラスの子どもの変化に気づけるかが重要だという話をしました。40人と30人では全然違いますよ、と訴えましたが、やはり理解を得にくいんですよ。

今年4月に教職員配置が間に合わなかったという問題もありましたが、子どもたちが楽しみに登校したら担任がいなかった、なんてありえないですよ。あつてはいけないことが全国各地で起きています。

坂本 栄養教職員の場合はセンタ

ー化していて市町村に1人というところもあり、栄養士不在のまま給食管理が行われる学校もありました。アレルギーや食育の問題もあるのに、現場は人員不足で疲弊しています。県教委交渉で話しても法律に準じていると言われ終わってしまうんです。

水岡 あらゆる観点で数値化、見える化をして、それを突き付けてリアリティを感じさせながら話をするのが大事ですね。対決ではなく共有できれば話は進みますよね。法律は官僚の人たちが作るもので、その人たちに理解してもらえないようなことを政治家が訴えていかなければいけないと思つています。

教職員の「働き方改革」はどうなっているの…

水岡 例えば元文部科学大臣の馳浩さんのように学校で仕事をしながらある人には私たちの訴えも理解してもらえないんじゃないかと思つています。教員経験のある文科大臣はここ30、40年の中では初めてじゃないですか。馳さんも当時校長より早く出勤していて、勤怠管理はされていなかったなんて話していましたね。

保科 私も先日働き方改革のシンポジウムに参加して馳さんのお話を聞きましたが、まず「教員の話」という言葉に対して、「学校には職員の方もいるから『教職員』ですよ」と言い直してください。授業数が多すぎるので空き時間を作らないと、授業の準備にどれだけ時間がかかると思つていらっしゃるんですか」と訴えられたり、とても共感を覚えました。

坂本 今小学校の家庭科の授業を担当の先生と一緒に担当しているのですが、事前打ち合わせをする暇もないくらいスケジュールが詰まつていて…。たつた7時間でも私は大変だと思つているのに、担任の先生は毎時間授業があつて、休み時間には子どもの話を聞いたリ、準備をしたり、トイレにも行く時間がないですよ。TTがいればいいですけど全学校に配置されるわけではないですし、どうにかしてあげたいと思つています。

水岡 当事者は「大変!!」となつてどうしたらいいかわからなくなつてしましますが、客観的に見て本末転倒だと捉えてもらえるのは嬉しいですよ。

坂本 今の学校は1学年1クラス



三者として結果公表し、それが国会で取り上げられ、文科省も調査をせざるを得なくなつたことです。すよね。それなのに、今国会で議論されている働き方改革は、公務

なので、どの先生も同じ状況で、「大変ね」「そういうものだから仕方ないよね」で終わってしまうんですよね。特に異動してきたばかりの人は何もわからず、相談する人もいない状況で、私もそれをみて気分が落ち込んでしまつて、どうしたらいいんだろう、と悩みました。

保科 超勤時間についてはすでに連合総研から調査結果が報告されていますが、現場の大変さを示すにはどんなことが効果的なのでしょう。か。

水岡 大きなきっかけは日教組と連合総研のタイアップで教職員の働き方の実態調査をし、連合が第

員、とりわけ教職員の働き方改革には直接的には関わっておらず、むしろ高度プロフェッショナル制度そのものですよね。教職員の働き方を他の人たちにもさせようとしている逆の話ですよね。

保科 昨年度青年部も「職場実態調査」を行いました。超勤時間は平均68・3時間で、回答者の約40%の青年が「過労死ライン」であるとされる月80時間以上の超勤を行っていたことがわかりました。さらに、「現在の働き方を定年まで続けることは可能か」という問いに対し、「不可能だと思ふ」「わからない」と回答した人が約86%いました。こういった意識調査もエビデンスになりますよね。

水岡 もちろん立派なエビデンスになりますよね。それをもってテレビ中継の入る予算委員会などでセンセーショナルに訴えるという手法が最も効果があるんですよ。私も当時予算委員会で、子ども相談ダイヤルを24時間対応にすることを提案したら補正予算で実現したという事がありました。2年前の奨学金問題のときも300万筆程集まった署名の入った段ボール箱を議員会館の壁一面に敷き詰めて集会を行った写真をテレビ中継のときに示して質問に立つたとき、その時の答弁は逃げるようなものでしたが、国会閉会後、自

民党が返済不要の奨学金を作ると言い始めました。こういう事からしても、教職員の働き方改革について手立てがないわけではありませぬ。「調査でこんな結果が出ましたがどう思われますか」「教育行政を担当する文部科学大臣、いかがですか」「総理はどう思いますか」と訴え続けることが大事ですよ。

**忙しいからこそ
集まるのが多忙化の
悪循環を断つ方法!**

坂本 組合活動に行きたいと思つても、土日も部活などに追われ

坂本麻美さん
(熊本県・栄養教職員)

青年部常任委員、現在小学校勤務



て、家で休みたいと正直思つてしまいますよ。私も前任校の中学校で部活も担当していたので、残業して22時過ぎに帰宅して、週末にやっと休めると思つたときに組合活動が入ると、「こめんなさい、家で休ませて」と断わってしまつていました。それで集まる機会を逃してしまつていたんですよ。現場がここまで疲弊している状況で、組合活動に参加できないと、またため込んでしまうという悪循環をどうしたらよいのでしょうか。

水岡 疲弊するほどやる事が多いので、減らないと根本的な解決

にはいたりませんが、悪循環を断つ方法を考えていかないといいですね。無理してでも集まると、みんなで吐露し合って、お互い頑張ろうね、という話になるのですね。組合はそういうところなんですよ、という呼びかけが大事ですよ。

保科 やはりしゃべるのって大事ですよ。現場でも毎日日付を越



えて仕事をしていて、「しゃべる時間なんてない、もったいない」と思っていたのですが、しゃべるとわかることもあり、共感し合えたりもします。忙しいから集まらないのではなく、忙しいからこそ仲間としゃべらなければいけない、と前青年部長が言っていたことが本当なんだ」と実感しています。昨年度青年部常任委員をしていて、土日に東京で集まることが多かったのですが、行く前は行ったら仕事終わらなくなる、どうすればいいんだ...と思っても、いざ行ってみるとやはり得られるものが多かったです。そのあと山形に帰って仕事がある時も、みんなからの励ましがとても嬉しかったですね。

坂本 きついでも行つてよかったですね。次にながりますよ、その一回目をどう引張ってくるかが難しく、それこそ組合の課題ですよ。今は声を出

せずため込んでしまう若者が多いですよ。私の友人も病気になるまで、休むのは自分が弱いからだと言っています。私たちはそう思われる環境にいますよね。今までは遠い話だと思っていました。自分の身近な人が病気になるまで初めて危機感を覚えました。何とか救ってあげたいです。

水岡 本来は管理職が考えるべき

ですが、仲間として手を差し伸べることも大切ですよ。民間は十分ではなくても一定の救済措置があるのに、教職員にはないんですよ。精神疾患で休職してしまったりほとんどそれきりで、教育委員会には何の手立てもプログラムもないんですよ。そんな中、教職員組合が公立学校共済が提携している病院に依頼し、教職員のメンタルヘルスケアのプログラムを作った。全国でも先駆けたとくみをしているところがあります。一度精神的な問題を抱えたら二度と復帰できないのではなく、しっかりとケアをして、その経験を糧にまた現場で頑張れる、というシステムが全国的に必要です。自分の弱さも知りながら、子どもたちと向き合える、というのが教職員にとって重要なことだと思っています。

私たちは公務員・組合員である前に1人の納税者・有権者

坂本 「なんで政治家が青年部の会に来て話すのかわからない」という意見が出され、それが政治活動だと勘違いしている組合員がいるんだと思いました。そんな中、先日青年部の会で水岡さんがお話ししてくださったときに、私たちの働き方や給料が決まるのも政治が関係しているという話を話してくださいととてもわかりやすかったです。そのような話を聞ける

保科充孝さん
(山形県・小学校教員)

日教組青年部長、昨年度は
小学校6年生担任



場を増やし、興味を持ってくれる人を増やすという流れを青年部独自に作って広めていけたらと考えています。

水岡 国の政策に訴えるのに最も有力で、具体的に成果が得られる可能性が高いのはやはり国会議員を通じてですね。組合運動をしているのになんで政治の話なの、そしてとりわけ選挙の話となるとみ



んなが訝しげに思うのも当然だけれども、仕組みから言えば組合員の思いを届ける一番大きな方法だと思えます。今回のような2対1の夢のような鼎談は難しくても、10人の組合員の方々と座談会ができたものすごく意味があると思うんですね。日教組運動も組合員全員と話をするのは難しく、話を聞いた人が他の組合員の人に伝えるという運動なので、結局伝える人が伝える気にならなければならないとダメですね。

保田 前回は青年部長

会の時に水岡さんに15分話をしてもらって、そのあと数人のグループに入って話をしてもらいましたが、反応が全然違いますよね。青年にとつてはそういう機会が大事だと思えます。それから発信することも大事ですね。SNSや動画などで自分たちの声がちゃんと届いているんだという事がダイレクトに伝われば身近に感じられ、政治に対してのイメージが変わってくると思えます。

水岡 私もどう発信すればいいか青年部の人に聞いてみたんですよ。今までのような支持者かカードやリーフレット配付ではなく、いつそのこと「青年部が突っ込んでみました15分間動画」のような気軽に見られるものも面白いね、と話をしていました。

坂本 きっかけとしてはすごく効果的です。そのあとは興味を持って自分たちで調べたりできませうし。私も組合に入るまでは政治に関心が薄かったと今になって反省しています。しかし、学校現場では政治の話をする自体がタブー視されています。政治活動に参加してはいけない、イコール政治の話をしてはいけない、と勘違いしている人が多いです。その感覚ははっきり「違う」と声を大にして言いたいです。例えば道徳の教科化についても、大変だね、で終わってしまい反発すらできないという空気がものすごくあり、疑問に思っても聞ける雰囲気もないです。

水岡 公務員の立場を利用してはいけないけれど、一個人として、人として行動することは何の問題もないですね。政治は国民の税金で行われているので、有権者は政治への関わりとして投票の権利

行使だけでなく、政治を厳しく見ていくという責任もありますよね。意見を言える権利を持っているのに、決められた制度は守らなければいけない、意見を言ってもいけないと思われがちですね。それはよく言えば従順な国民性がゆえ、悪く言えばいいなりですね。もしかしたら戦後教育が、「これっておかしい」「なぜ」「どうして」ということを子どもたちにあまり言わせない教育になってしまったのかもしれません。私自身も教員時代を振り返って、自分の問題として考えています。それが積み重なれば、そういう子どもたちを世に送り込んでしまっていることになりませうね。そう考えてみても、学校というところはものすごく重要であって、責任が重いところですね。

保田 私も組合に入ってから、日政連議員のみなさんが私たちの声を国会に届け、それが結びついて動いてきたという流れがわかったので、とにかく「知る」ことが大事だと思っています。まずはそのような機会を増やし、私たち組合員と日政連議員のみなさんのさらなる連携で、子どもたちの教育や教職員の働き方の改善につないでいきたいです。